

THEサステナビリティ・インパクト・レーティング2026 「SDG3（健康と福祉部門）」で 3年連続国内1位を獲得

2026年6月24日、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が発表した「THEサステナビリティ・インパクト・レーティング2026」(旧THEインパクトランキング)で、本学はSDG3「すべての人に健康と福祉を」分野において、エントリーした国内外1,254大学の中で3年連続国内1位(世界28位)を獲得しました。

これは、国連が掲げる「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals (SDGs)」に即して、大学の社会貢献の取り組みを可視化するランキングです。本学では引き続き、「その時、いちばん動ける藤田学園へ」をスローガンに、未来社会のあらゆる課題に積極的に取り組んでまいります。



お問い合わせ



藤田医科大学
FUJITA HEALTH UNIVERSITY
学事部 SDGs推進課

藤田学園の
SDGsの
取り組み



詳しくはこちら▲

〒470-1192
愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪1番地98
TEL : 0562-93-9646



藤田学園とSDGsの取り組み

藤田医科大学は、建学の精神「独創一理」のもと、Fujita VISION 2030を定め、「その時、いちばん動ける藤田学園へ」をスローガンに、「研究」「教育」「医療・福祉」「社会貢献」に取り組んでいます。昨今の貧困と経済・医療格差の拡大、気候変動、生態系の持続性への懸念、紛争や感染症など、数多くの地球規模での課題に対しても、既成概念にとらわれない自由な発想により全学を挙げて取り組んでいます。2024年4月には持続可能でインクルーシブな社会の構築とSDGsの達成に貢献するため、本学園はSDGs行動指針を発表しました。

建学の精神

「独創一理」

病院理念

我ら、弱き人々への無限の同情心もて、
片時も自己に驕ることなく医を行わん

"With infinite sympathy for the afflicted,
we provide medical care at all times
without self-praise or self-satisfaction."

Fujita VISION 2030



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsの目標設定と
達成のための
重要なポイント

- ・世界や社会ニーズに合わせた目標設定
- ・外部の視点から必要な目標設定
- ・実施する取り組み全体の「持続可能性」を組み込む

SDGsの17目標は相互に関連し合っているため、トレードオフではなく、複数目標の同時解決ができるように取り組むことが重要です。



SDGs ウエディングケーキモデル

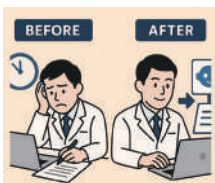
持続可能な開発目標の17のゴールの関係性を可視化するモデルのひとつで、ストックホルムにあるレジリエンス研究所の所長だったヨハン・ロックス博士らによって考案された。経済・社会・環境の3層から成り、「経済」は安定した「社会」の上に、「社会」は生物圏の基本である「環境」に支えられていることと、それぞれに関連するゴールを表している。

FUJITA SDGs NEWSLETTER 2026



藤田医科大学
FUJITA HEALTH UNIVERSITY

医師の負担を減らし、次世代の医療環境をつくる



カルテからAIが下書き

▶ 医師はチェックして修正するだけ

時間の短縮

▶ 診療や研究の時間が増えます

31の診療科で導入中

藤田医科大学病院では、生成AIを活用した「退院時一作成支援システム」を開発し、2025年2月より6診の退院時に他の医療機関や福祉施設でのケア継続を目的に、診断・治療経過をまとめた文書のこと、従来作成には1件10～15分を要していました。本システムでは、電子カルテのデータをもとに生成AIが自動で下書きを作成する秒での生成が可能となり、導入から3か月で約1,000業務時間を短縮、医師の92%が効率化を実感しています。同年3月には対象を31診療科に拡大し、大学病院全本格活用は全国初の事例となりました。地域医療の決と、次世代によりよい医療環境を残すことを使命に、診療情報提供書や公的文書等の作成にも展開を進めると、全国の医療機関への普及をめざします。

サマリー療科で先行運用を開始しました。退院時サマリーとは、患者時に他の医療機関や福祉施設でのケア継続を目的に、あたりカルテのデータをもとに生成AIが自動で下書きを作成する秒での生成が可能となり、導入から3か月で約1,000業務時間を短縮、医師の92%が効率化を実感しています。同年3月には対象を31診療科に拡大し、大学病院全本格活用は全国初の事例となりました。地域医療の決と、次世代によりよい医療環境を残すことを使命に、診療情報提供書や公的文書等の作成にも展開を進めると、全国の医療機関への普及をめざします。

移植医療を支える新たな仕組み



本学が中心となり設立した「中部日本臓器提供支援協会（CODA）」が2026年1月、厚生労働省より日本臓器移植ネットワーク（JOT）以外で日本初となる「ドナー関連業法人」の認可を取得しました。臓器提供者の意思を医療につなぎ、心臓・肺・肝の移植を必要とする患者さんへ、1人でも多く機会を届けることをめざします。また対象は心臓・肺・肝臓に加え、腎臓・脾臓・小腸も含まれ、東海・北陸7県の医療機関へもコーディネーターを派遣し、支援体制を構築していきます。

厚生労働省より日本臓器移植ネットワーク（JOT）以外で日本初となる「ドナー関連業法人」の認可を取得しました。臓器提供者の意思を医療につなぎ、心臓・肺・肝の移植を必要とする患者さんへ、1人でも多く機会を届けることをめざします。また対象は心臓・肺・肝臓に加え、腎臓・脾臓・小腸も含まれ、東海・北陸7県の医療機関へもコーディネーターを派遣し、支援体制を構築していきます。

疾患の壁を越える研究で、日本の医学を再興する



本学は2025年8月、AMED（日本医療研究開発機構）の「医学系研究支援プログラム」に、全国で6大学のみといこのプログラムは、大学ードする取り組みで、次務医や開業医が大学の染症などに共通する体のます。「すべての人に健

ED（日本医療研究開発機構）の「医学系研究支援プログラム」に、全国で6大学のみといこのプログラムは、大学ードする取り組みで、次務医や開業医が大学の染症などに共通する体のます。「すべての人に健康と福祉を」の実現に向けて、研究の力で貢献してまいります。

共に住んで育む、未来の医療人



本学はUR豊明団地と協力し、2015年から医学部・医療科学部・保健衛生学部などの学生が団地に住み込みながら地域貢献活動を行う「おとなりプロジェクト」を実施しています。教室では学べない実践的な学びの場として、2025年度は学部・学年の異なる25名が参加し、自治会行事や防災訓練、地域の健康づくりを目的としたウォークラリーなどを企画・運営。活動を通して地域の方々と支え合いながら、高齢者や子どもたちと直接関わる中で、思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、地域の健康課題への関心を育んでいます。学校カリキそのものを通じて、未来の医療人としての資質を養うこの教育的取り組みが「住み続けられるまちづくりを」の実現にもつながる、持続可いります。

学部の壁を越えて学ぶ防災

本学は、学部・学科の垣根を越えて学ぶ「アセンブリ教育」の一環として、2023年度入学生から全学生に防災士養成研修会の受講を義務化しました。1年生では災害時に避難所で使用する段ボールベッドや簡易トイレの設営を体験するとともに、防災士資格を取得します。2年生では災害時におけるトリアージ講習、患者搬送、防災グッズ作製、防災食の調理・試食を体験します。3年生になると被災住民の支援について考えるべく、ケーススタディを通じて必要性や効果について討論を行い、理解を深めます。自助・共助・協働の視点から災害時に必要ことで、現在、全学生約2,800名のうち約2,100名が防災士資格を取得れない実践的な学びを通じて、災害時に地域へ貢献できる人材を育成教育の取り組みです。



ユラムの枠を超えた地域生活組みは、「すべての人に健康と能な地域づくりの実践となつて



な知識と技術を実践的に学ばしています。座学だけでは得らする、医療系大学ならではの

活躍の場を広げ、可能性を育む



加への意欲向上を支援しています。2025年から隣接する地域共生農園を開設し、自然栽培にり組み、収穫した野菜を病院で提供する食事さんに届ける「農・福・医」連携モデルを推

障がいのあける場として「スマイルチーム」掃や事務軽たな業務へ躍の場を広ひとりの作

る方が安定して働で発した「スマイルチーム」では、講義室清作業に加え、新の挑戦を通じて活ば、スタッフ一人業スキルや社会参

地域に根ざし、すべての人に健康と福祉を

本学は、地域に根ざした大学として、その知す。団地の一角に開設した「ふじたまちかど談やミニ講座を受けられる身近な場を提供し一マの公開講座、病院見学ツアーなど、無料ます。活動を通じて、専門家が市民一人ひと命の延伸に貢献するこれらの取り組みは、「す学ならではの社会貢献活動です。

識と専門性を社会のために積極的に活かしていま保健室」では、地域住民が気軽に立ち寄り健康相しています。さらに、ウォーキング講座や様々なテで参加できる健康イベントを定期的に開催していりに向き合いながら、生活習慣病の予防や健康寿すべての人に健康と福祉を」を体現する、医療系大

ドクターヘリがつなぐ、医療と地域の絆

藤田医科大学病院は、2024年1月1日に発な医療支援を行いました。愛知県東の要請を被害状況の確認や患者搬送活動に取り組み重要な役割を果たし、陸路での移動が困難能にしました。「その時、いちばん動ける藤災害医療体制の充実を図り、誰もが安心してSDGsの達成に取り組んでまいります。

生した能登半島地震に対し、発災直後から迅速受けてDMAT（災害派遣医療チーム）を出動させ、ました。ドクターヘリを活用した患者搬送調整はな被災地でも、迅速かつ広域的な医療搬送を可田学園へ」をスローガンに、私たちはこれからもて暮らせる持続可能な社会の実現をめざし、



藤田学園のSDGsの取り組み



詳しくはこちら▲